



認知症マフって知ってますか？

今、日本で認知症マフ(英名:Twiddle Muff トウイドウル・マフ)の利用が介護や医療の現場で急速に広がっています。

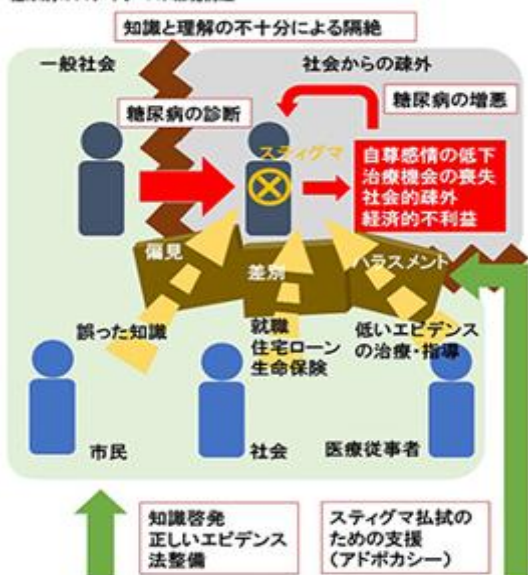
認知症マフ(Twiddle Muff)は、触覚や視覚への刺激を通じて、認知症の方の不安や興奮を和らげ、安心感を与える効果が期待されています。また、手指の運動による脳の活性化や、他者とのコミュニケーションのきっかけ作りにも役立ちます。

医療現場では、落ち着かない手の動きを穏やかに誘導し、点滴を抜くなどの行動を抑制する身体拘束の代替として使用されるほか、マフを触ることや会話のきっかけを通して、患者と医療従事者のコミュニケーションを促進し、患者の精神的な安定に寄与する効果が期待できます。



文責：認知症看護CN 宮崎真寿美

糖尿病のスティグマの環境構造



日本糖尿病協会HPより

糖尿病治療とスティグマについて

みなさんは糖尿病といったら何を思い浮かべますか？太った人になる病気？自己管理ができない？負のイメージを持つことが多いのではないのでしょうか。近年スティグマという言葉が聞かれるようになりました。社会における糖尿病の知識不足、誤ったイメージの拡散により、**糖尿病をもつ人は「特定の属性に対して刻まれる負の烙印＝スティグマ」(社会的偏見による差別)にさらされています。**スティグマを放置すると、糖尿病であることを周囲に隠す→適切な治療の機会損失→重症化→医療費増→社会保障を脅かす、という悪循環に陥り、個から社会全体のレベルまで、様々な影響を及ぼすことになります。スティグマの例に「間食を咎められた」があります。間食＝好ましくない行動と思っていませんか？間食を見かけたら思わず注意しがちです。ある人は、以前低血糖で意識消失を起こしたことがあり、低血糖に対する恐怖心から、予防として間食を行っていました。間食するから疾患についてわかっていないのではなく、なぜ間食を行うのか、**対話しアセスメントすること、スティグマを減らすことが医療者の役割**ではないでしょうか。

文責：糖尿病看護特定認定看護師 田尻顕

	社会的スティグマ (社会的規範からの逸脱、レッテル)	乖離的スティグマ (模範的な糖尿病患者のイメージからの乖離)	セルフスティグマ (自尊心の低下)
経験的スティグマ (実際に経験)	・生命保険に加入できなかった ・住宅ローンを断られた ・就職できなかった ・寿命が短い	・間食をとがめられた ・インスリン注射を拒否すると叱責された	・「糖尿病」の病名や診療科 ・想定外の治療成果に対して医療者に「すみません」と謝る
予期的スティグマ (スティグマへの恐れ)	・糖尿病のことを上司・同僚、とくに家族にも言わない	・淡々注射をしている ・隠れ食いをする	・宴会や会合に行くのをやめる ・だれにも相談しない

糖尿病リソースガイドHPより